

サポートRST



令和7年5月19日発行
作成・発行:相馬市教育委員会学校教育課

「相馬メソッド」を活用した授業改善に向けて

第2号でお伝えしきれなかった「相馬メソッド」の取組の充実について、今回は少し説明させていただきます。

「相馬メソッド」は、RSTを活用した授業改善の重点で、8点となります。日頃からの取組が一番重要です。8点を意識し、継続して取り組んでいただきたいと思います。



1 教師がRSの視点で教科書を読む。

- ・ 児童生徒のつまずきを意識して教科書を読み、教材研究をする先生方が増えてきています。授業をする上で最も大切なこととなります。
- ・ 「読む」とは、「読み解く」ことだけではなく、先生方が「音読する(声に出して読む)」ことも大切です。

2 子どもが教科書をフル活用する。

- ・ どこで、教科書のどの部分を効果的に使用させるのか、意図を明確にしておくことが大切です。
- ・ 目指すのは、自学自習ができる児童生徒です。自学自習できるためには、読解方略も身に付けることが大切となります。

3 教師と子どもでめあての確認をする。

- ・ めあての確認は、「共書き」で行うことが基本です。
- ・ めあてを教師と児童生徒とで確認するので、まとめとの整合性を意識することができます。「めあてとまとめの整合性」とは、次のようなことです。

- ① めあての表記を意識してまとめていること
「めあて」と「まとめ」の関連を意識することが大切です。
- ② 言葉の使い方にねじれや、助詞のずれなどがいないこと
「めあて」と「まとめ」の文の中のそれぞれの表現を意識することが大切です。

4 ノートに残す板書を構築する。

- ・ 子どもたちは、ノートを家に持ち帰って学習をします。ノートの内容の再現性を意識して板書することが必要です。
- ・ 授業では、プリントやワークシートではなく、ノートを使用することが基本となります。

5 教師の意図が伝わる表現をする。

- ・ 解釈が一意に決まらない(一意に定まらない)表現をしていないかを意識して、子どもたちが理解できる表現で話したり、書いたりすることが必要です。

6 意図的にアウトプットの間機をつくる。

- ・ アウトプットさせたら、児童生徒の考えを把握し、コーディネートしていくことが大切です。
- ・ アウトプットさせた内容について、子どもたちに問い返したり、机間指導で確認し意図的指名に生かしたりすることが必要です。

7 具体例生成や同義文生成の活動を取り入れる。

- ・ 定義文を確認し、定義文をもとに具体例生成の学習に落とし込むことが大切です。(算数科や数学科の図形の学習がこれに当たります。)
- ・ 同義となるように書き換える学習を意図的・計画的に取り入れていく必要があります。例えば、次のような学習です。

- ・ 単語を1つ、言い換えてみる。
- ・ 文節ごと、言い換えてみる。
- ・ 文字数を減らしてみる。
- ・ 2つの文を、1つにまとめてみる。

(『新井紀子の読解カトレーニング』(東京書籍)より引用)

8 文の読み方を明示的に指導する。

- ・ 児童生徒が読解方略のよさを実感し、自分で活用できるようにしていくことが重要です。改めて、明示的な指導のポイントは、次の4点です。

- ① 読解方略の明示
(例)「文章を読むときは、重要なところはどこかを考えて、そこに線を引くとよいです。」
- ② 読解方略の使い方や効果の説明
(例)「あとから『どんな内容だったか』振り返りやすくなるよう、重要なところに線を引きましょう。」
- ③ 意図的な練習の機会の設定
(例)「一緒に線を引ながら読んでみましょう。どこに線を引くとよいでしょうか。」
- ④ プロセス(課題解決の過程)のフィードバック
(例)「〇〇さんは、よいところに線が引きましたね。重要なところと印象に残ったところに線を引いたのですね。違う色で線を引くなどして区別するのもいいですよ。」

「明示的な指導」とは、「何をどのように学んだのかが誰の目にもはっきりと分かる指導」のことです。

(『リーディングスキル向上実践事例集【第2版】』(福島県教育庁義務教育課 令和5年5月)より引用)

- ・ 「明示的な指導」と「指示」は、異なります。「指示」は、「先生に～と言われたので、その通りに～した」という学習を指します。



「基礎的・汎用的読解力」は、学習を効果的に進めるための学習スキルの1つであり、授業のねらいを達成する土台となる資質・能力です。

(『リーディングスキル向上実践事例集【第2版】』(福島県教育庁義務教育課 令和5年5月)より引用)

